

メシアは死ななければならない

2014年1月17日 アシェル・イントレーター

現在イスラエルでは、イエシュアの時代と同じく、まだ、メシア王として降臨され支配し、世界に平和をもたらして下さるという期待があります。メシアがまず降臨し、死ななければならないという概念(そして、その後に支配するという)は、私たちの民が理解するには難しいのです。しかし、古代イスラエル人預言者はメシアの死に関わる3つの出来事を預言しました。

ダニエル 9:26 – その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。

この箇所はいつメシアが死ぬのかが述べられています。「断たれる(英語では「切り倒す」「切り落とす)」という言葉は「木を切る」ようであり、それが示すのは、人が老年を迎える前に殺されることを表しています。紀元70年の第二神殿の破壊の前にメシアは死ななければならないのです。ルバヴイッチ・ラビ・シニアソンの信者のいくにんかは、彼がメシアであると主張しています。これは正しくは決してありません、彼は老年になってから亡くなり、しかも神殿が破壊されてから1900年が経ってからだからです。

ゼカリヤ 12:10 – わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。

ここの「わたし」は、神の霊を注ぎ、突き刺される「わたし」と同じなのです。これはその方が誰なのか、そしてその方の死がどのように起こるのかを示しています。突き刺されるためには、その方には体が必要ではありません。聖霊をそそぐには、その方は神的存在でなければなりません。すなわち、メシアは神的存在であり、肉体を持ち、突き刺されるのです。

イザヤ 53:8 – しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。

この箇所は、なぜメシアがまず降臨し死ななければならないのかを述べています。「"cut off"」という言葉は法的宣告を意味します。「わたしの」民、イスラエルの子らの罪ゆえに、死刑が宣告されたのです。

ラビによる解釈書、ラシによりますと、イザヤ53章は異邦人の手によるユダヤの民の苦しみを表すと述べています。(ローマ11:12、15; マタイ2:16と比較して下さい)。しかし、それが第一義的な意



味とはなり得ません。ここでは、一人のメシア的存在が「わたしの民」のために苦しめられているからです。

ラビ・シニアソンが病気になった時、いくにんかのルバヴィッチ信奉者らは、彼らのラビがイザヤ 53 章を成就したと主張しました。他のユダヤ教のグループはクリスチャンによるメシア預言の解釈に同意していると述べています。彼らに

よりますと、イザヤ 53 章は確かにメシアを指していますが、しかし、それを成就したのはシニアソンだという。

アリエル・シャロン 1928 – 2014

イスラエルの第 11 代首相であったアリエル・シャロン氏は恐らく現代イスラエル軍における最も偉大な将軍であったでしょう。1928 年 2 月 6 日、イスラエルで生まれ、多くの建国者と同様、彼も心底からの農家でした。彼は彼の地、彼の民を愛しました。

彼は独立戦争(1948 年)で戦い、激戦地であったラトラン(Latrun)での戦闘で負傷しました。1950 年代、彼はフェヤディーン(Fedayeen)侵入者とテロリストらと戦う有名な 101 部隊の司令官となりました。ヨム・キプール戦争(1973 年)において、彼は、スエズ運河を渡る大胆な作戦と報復としてのエジプト攻撃など多くの人から国を壊滅から救ったと讃えられています。国防大臣として、彼は 1982 年のレバノンでの戦争を指揮し、レバノン 南部のレバノン人クリスチャンによってサブラとシャティラの街々にいたイスラム教徒を殺害させたことで国際的に非難を浴びました。

シャロン氏は、ユダヤ-サマリア-ガザ地域の入植地建設を推し進めて、入植地の「父」として知られるようになりました。2004 年に首相として、彼は、パレスチナ人は決して和平を結ばない、そしてガザ地区にある小さな入植地は無数の狂信的なイスラム教徒に囲まれて、防戦するには不可能であるという結論に達しました。それゆえ、彼は戦略的に決断を下し、一方的にそこに住む 8500 人のユダヤ人入植者を撤退させました。その決議は大変な物議を醸し出しましたが、国会で早々に通過し、ほんの数ヶ月以内でそれが行われました。

2006 年に心臓発作を起こし、彼はシェバ病院で 8 年間昏睡状態にあった後、先週の安息日に息を引き取りました。彼はステロットの近くにある彼の農場にある、妻リリの隣に葬られました。



(写真引用元: ジム・ワラス撮影(スミソニアン博物館蔵))

ガンが癒やされる

先週の金曜日、イスラエルの主要なニュースチャンネル(チャンネル 2)の一つが、奇跡的な癒やしの話を放送しました。イスラエル北部出身のアラブ・クリスチャン女性(Therese Daoud)の脚に、オレンジの大きさのガン化した腫瘍が見つかりました。医師らは、彼女の脚を切断せねばならないと結論付けました。しかし、三度も手術はキャンセルされ、それによって彼女は医療による治療を進めるべきではない、その代わりに祈るべきと信じました。五ヶ月後、彼女は次の検査のために医師の元に戻り、彼女の腫瘍が完全に消えている事を発見しました。医師は語りました。「私はこのようなことを見たこともないし聞いたこともない。」Daoudさんはイスラエルのテレビに「これは神からの贈り物です。」と答えました。

ヘブライ語でこの物語を見る場合、こちらを[クリック](#)して下さい。

エステル断食

私たちの年ごとのエステルの断食について、カレンダーにご記載下さい。3月13日木曜日、イスラエル時間の午前6:00から午後6:00まで、ライブ・ストリーム放送でネット上に流します。祈りの課題、スケジュール、そしてリンクは今後のニューズレター上に掲載予定です。

祈りのリクエスト

ある若い元超正統派の女性に対して、今週私たちのチームが分かち合いを行いますので、どうかお祈り下さい。

新しい憲法に対する最終決定がまだなされていないというエジプトでの状況のために、どうかお祈り続けて下さい。